

～道徳の授業に新しい風を～

「食育×道徳」教育

夏休み前に
実践を！



武庫川女子大学准教授
藤本 勇二

夏休み前に道徳の時間で食育の授業実践をしませんか。

道徳の授業では、自分の食生活や生活習慣を見つめ、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験や考え方と照らし合わせながら、食生活や健康についてさらに考えを深めるよさがあります。

夏休み前に“食育×道徳”実践を！

夏休みは、子どもたちの生活が不規則になりがちです。生活習慣も乱れる傾向にあります。朝食の欠食や食事のバランス、生活リズムの不調や睡眠の質の低下など、夏休みの生活の乱れは、見過ごせない問題です。成長期の子どもたちにとって健全な食生活は、健康な心身を育むために欠かせないものであると同時に、将来の食習慣の形成に大きな影響を及ぼすものです。食に対する意識を高め、食に関する正しい知識を習得し、適切な判断を行う能力を身に付けるといった食育の推進が大変重要になっています。

道徳では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目指します。そこで、健康や食生活の側面から、自己を見つめることで道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることにつなげます。食に関する指導を行うことで、食育の充実につなげることのみならず、当該教科の目標がよりよく達成されることが実現できるのです。

学校教育活動全体を通した食育実践

平成29年に告示された小学校、中学校、特別支援学校小・中学部の『学習指導要領解説 総則編』において、「学校における食育の推進」がこれまで以上に明確に位置付けられました。あわせて、体育科(保健体育科)、家庭科(技術・家庭科)及び特別活動の時間のもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努め

ることとされ、子どもたちの発達の段階を考慮して、学校教育活動全体として取り組むことが必要であることを強調しています。

『食に関する指導の手引 第二次改訂版』では、指導を充実するために下の6つの視点を設定しています。

食に関する指導を充実するための6つの視点

食事の重要性	食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
心身の健康	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
食品を選択する能力	正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
感謝の心	食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
社会性	食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
食文化	各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

※道徳科の内容項目として、食育に関係が深いのは、〔節度・節制〕〔感謝〕〔生命の尊さ〕などの道徳的価値を含む内容です。

道徳における食育の進め方

※夏休み前の指導を踏まえて、節度・節制に関して左記の手引きをもとに、道徳科の基本的な学習指導過程との関係を整理します。

小学校

〈導入の段階〉

- 起床や就寝時刻、食事を含めた生活のリズムについて1週間調査を行い、規則正しい生活をしているかどうかを自己評価させて、問題意識をもたせます。

〈展開の段階〉

- 規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっていても、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。

〈終末の段階〉

- 食事と睡眠をしっかりとり、生活に一定のリズムを与えることで、健康で明るく、快適な毎日を送ることができるようになることに気付かせ、実践しようとする意識を高めます。



中学校

〈導入の段階〉

- 自分の生活を客観的に振り返り、特に朝食のとり方や、食事内容について振り返ることで、食の大切さを考えるきっかけとなるようにします。

〈展開の段階〉

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合い、規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっていても、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。

〈終末の段階〉

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合った後、自分の生活を振り返る中で朝食を食べる意義を考え、自己の生活における食生活を見直す実践意欲を高めるようにします。

食育実践のポイント

その1 カリキュラムマネジメント

食に関する内容は教科横断的な視点に立った学習が求められます。そのため、子どもたちの実態を踏まえ、道徳科と各教科等、学級活動の関連を明らかにすることが大切です。その上で、各教科等の具体的内容に関連付けながら効果的な年間指導計画などについて校内研修等を通じて研究していくことが重要です。



写真は、2年生が道徳の学習を踏まえて、学級活動での「元気のもと朝ごはん ～1日のスタートは朝ごはんから～」を学習している場面です。ペアで朝ごはんのメニューを考え、タブレットを使い、タブレットから献立を選択し、画面に並べていきます。自分の食べている朝ごはんの経験話をしながら、バランスのよい食事への関心を高めています。

その2 なりたい自分を考える

食育となると、〇〇を食べないといけない、△△は食べてはいけない、という指導のイメージがあります。子どもたちにとって、なりたい自分や夢を実現するために食を考える、そうした立ち位置が大切になります。『小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 特別の教科 道徳編』においても「道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるという道徳的価値の自覚を深める過程で、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われるのである。その中で、自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることが大切である。」とされていることを自覚したいものです。

その3 栄養教諭や養護教諭とのコラボ

専門性を有する栄養教諭や養護教諭が授業に参画することにより、目標や内容、教材や題材、学習活動など様々な面で食に関する指導と関連付けて指導することができ、道徳科の授業で活用する教材を作成するとき、食や健康に関する情報などを提供してもらったり、内容などのアドバイスをもらったりすることも大切です。専門性を生かして子どもの課題を解決するために協働する授業づくりが必要です。